

## 今週の言葉

### 「やるべきこと」から逃げない



キャリアサポート委員会 星 雅文

最近、「やる気がしない」「おもしろくない」「何をしたいかわからない」「やりたいことが見つからない」などの言葉を学生から聞くことがあります。そのような時、私は悩む学生に対して「今、やるべきことを頑張りなさい。」とだけ伝えます。

さて、「やるべきこと」は、みなさんが「やりたいこと」と一致するでしょうか。残念ながらそんな都合のよいことは滅多にありません。その「やるべきこと」が他人からの「頼まれごと」ばかりの時もあります。いくら頑張っても自分に見返りが無い、頑張るだけ損だから手を抜こう・・・そう考えても不思議はありませんが、多くの人は頼んできた人の期待に応えようとしています。

みなさんが就職した後、新入社員として「やるべきこと」は、ほとんどが自分の「やりたいこと」と合いません。なぜなら、みなさんのやるべきことは就職先の先輩・上司が決めるからです。就職したばかりの時は、いくら優秀な人であっても、その職場では「ど素人」であって、自分で仕事を選ぶことなどできません。目の前の「やるべきこと」から逃げずに、とにかく真摯に取り組むしかないので。そこから本当に自分の「やりたいこと」が見つかります。

正直なことを申しますと、私は大学という組織で生きていく気がなく、大学院修了後、すぐに社会に出ました。そして大阪市内の医療機関に勤めました。そこで7年間、やるべき仕事、頼まれた仕事に挑みました。そんな中、医療の世界で事務職として働く人材が足りないこと、これからもっと育成する必要があることに気づきました。それが私にとって「やりたいこと」を見つけた時だったのかもしれませんが。そのタイミングで、たまたま大学教員の話をいただき、それに応じ、現在に至っています。

哲学者の内田樹（うちだ たつる）氏が、「“calling” 他者の呼ぶ声から、本当の仕事が始まる」というタイトルのインタビューで、就活学生に次のようなメッセージを述べられていました。

「皆さんは就職を考え始めたとき、『自分に何が向いているのか』『自分は何がしたいのか』と考えたと思います。でも、それが大間違い。自分がどんな仕事に適性があるかなんて、誰にも分からないからです。適性とはやってみて、あとから分かる。僕が無職で、頼まれ仕事だけで暮らしていた頃に気づいたことがあります。それは僕に仕事を頼んでくる人の方が、僕の能力や適性について僕以上によく分かっているということ。向こうは僕にならそれができると思うから頼んでくるわけです。だから、頼まれた仕事は何でもやりました。経験のないことでも二つ返事でやりました。他者に呼ばれること“calling”には『天職』という意味もあります。自分のすべき仕事は自分で見つけるのではありません。仕事の方が呼びに来るのです。・・・（以下略）」

(<http://www.asahi.com/job/syuukatu/2014/hint/OSK201301040041.html>)

就活、講義のレポート、資格試験など、みなさんには今「やるべきこと」が必ずあります。とにかく逃げずに挑みましょう。そして、人から頼まれたことは断らずに笑顔で受けましょう。眼前に現れる山を乗り越え続けることで、次の新たな景色が必ず見えてきます。企業や組織が欲しいのは、いかなる課題に対しても逃げることなく真面目に立ち向かうことが出来る学生です。大学の成績の見方は様々ですが、学生として「やるべきこと」に真面目に取り組んだかを見ることはできます。「やるべきこと」に取り組んだ結果は、自然とついてくるものです。

